

愛知県児童総合センター

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設(大型児童館) 住宅 ()
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 (補助金) 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 (建物状況) 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. チャレンジタワー

愛知県児童総合センターは、愛知県長久手町(現 長久手市)にあった青少年公園の中に建設された日本国内最大規模の大型児童施設である。膜構造の大屋根を支える中央部の斜塔チャレンジタワーは二重らせん動線を持つ遊具建築である。これを中心に縦横に張り巡らされたトンネルや空中歩廊、広々としたアトリウムなどがあり、子どもの遊びが自然に発生する空間になっている。

■施設概要

施設種別：県立大型児童館（A型）

所在地：愛知県長久手市茨ヶ廻間1533-1

運営主体：公益財団法人愛知公園協会

竣工年月日：平成8年3月

運営開始：平成8年7月24日

設計者：仙田満、藤川原設計、環境デザイン研究所

敷地面積：14,096㎡

建築面積：4,674㎡

延床面積：7,600㎡

構造：膜構造、RC造（一部S造） 地上3階

入場料：中学生以下無料、その他300円

開館時間：9:00～17:00

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）
及び年末年始（12月29日～1月1日）

駐車場：有

■運営概要

愛知県児童総合センターは、「あそび」をテーマに、身の回りの「もの」や「こと」と出会い、感じ、気付く、というような時間と空間を提供する施設を目指して、平成8年に開館した。

また、遊具やあそびのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワークづくり、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っている。



写真2. 周辺状況（出典：国土地理院*）2007.06.16
東部丘陵線（リニモ）「愛・地球博記念公園」駅を下車し、徒歩5分。愛・地球博記念公園内にあり周辺は豊かな自然に囲まれている。



写真3. 外観写真

丘陵の敷地にあわせて計画されており、平面形状は真ん中にある卵形の吹抜けのまわりに諸室が計画されていて回遊動線で結ばれている。

参考文献

- 1) 愛知県児童総合センター < <https://www.acc-aichi.org/old/index.html> > 2020.05.04 参照
 - 2) 環境デザイン研究所 < <http://www.ms-edi.co.jp/works/266/> > 2020.05.04 参照
 - 3) 建築作品 建物やまちの歴史や背景 < http://sakuhin.info/japan/aichi_jidou_sougou_center/ > 2020.05.04 参照
- * 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス < <https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1> >



写真4. チャレンジタワーの内部



写真5. 二重らせん動線内の仕掛け

■建物について

愛知県児童総合センターは、愛・地球博記念公園内にある県立の大型児童館で、丘陵の敷地に合わせて計画され立地している。上から見ると、真ん中にある卵形の吹抜けのまわりに諸室が並んでおり、回遊導線で結ばれている。

県内の児童館のセンター機能を持つと同時に、県内の子どものおそび環境の研究・研修機能を持っており、大ホール及び研修室など設備も充実している。

■空間構成について

愛知県児童総合センターは設計者である仙田満氏によって創られた「遊環構造」を持った建物である。これにより子どもたちが集まり、楽しみ、育ちが促される空間になっている。

チャレンジタワーのスロープには、子どもサイズの細かい抜け道のようなものが数多くあり、ショートカットができる。他にも、めまい体験ができたり、音や光、暗闇、色、匂いなど、五感を刺激する仕掛けがある。これは上記で述べた「遊環構造」に基づくものである。



- ①あそびスタジオ1 ②あそびスタジオ2 ③チャレンジタワー ④とことこのへや ⑤体験ゾーン「こどもの森」 ⑥発見ゾーン「あそびラボ」 ⑦ロボットシアター ⑧水のひろば ⑨アトリウム

- ①キッチンスタジオ ②あのねっとのへや ③チャレンジタワー ④えほんのへや ⑤あそびステーション ⑥発見ゾーン「音・光」 ⑦コラボラボ ⑧レストラン

写真6. 見取り図 (愛知県児童総合センター ホームページ参照)

■センターの機能

1. 体験・育成機能

館内のすべてのスペースが親子の豊かな遊びを展開する場となっている。人間の五感をフルに活用し新しい気づきを促す。

2. 開発・調査機能

遊具や遊びプログラムの開発、よりよい子育て環境を作るための調査、資料収集などを行う。

3. 養成・研修機能

市町村児童館の遊びの指導者である児童厚生員やボランティア等を対象とした、児童健全育成や子育て支援、児童環境づくりに関する実践的な研修を行う。

4. 普及・啓発機能

遊びや子育て環境づくりを進めるため広く情報を発信する。加えて、子育てに関するセミナーや相談などの子育て支援、移動児童館も実施する。

■コーナー

・「あそびのスタジオ」(写真7)

土など、身の回りにある素材を使って遊んだり、様々なテーマでダイナミックにあそびが体験できる諸室

・「こどもの森」(写真8)

「森」や「まち」をテーマにした大型遊具などがある体験諸室

・「とことこのへや」(写真9)

小さな子どもたちのための幼児コーナー。授乳室やおむつ替えコーナーもある。

・「あのねっこのへや」(写真10)

小さい子どもと、大人のくつろぎと情報のスペース。子育てセミナーも行っている。

他にも、レストランなどがある。しかし、室内も飲食可能なスペースがあるため、弁当を持参してくることもできる。



写真7. あそびのスタジオ



写真8. こどもの森



写真9. とことこのへや



写真10. あのねっこのへや